

ロケ地を訪ねて 『三匹のおっさん』編

「いいなあ、昔のまんまだったのは」



「三匹のおっさん」が撮影された高崎電気館

●昭和の映画館「高崎電気館」復活

映画のまち高崎のシンボルに

まちに残る古い映画館には、人々の思い出が詰まっている。

高崎の繁華街に、100年以上の

歴史を持つ映画館「高崎電気館」が

ある。高崎電気館は、今から約100

年前、大正2年（1913）の1月1

日に開館した高崎で初めての映画館

で現在の建物は昭和41

年（1966）に建築

された。時代の流れで

2001年（平成13）

に閉館したが、所有者

の広瀬公子さんが愛

情を込めて大切に管理

し、平成26年に高崎市

に寄贈された。

高崎電気館の内外

観は築50年超えの風格

を持ち、しかも実際に

映画が上映できるよう

に改修、整備されたの

である。地域市民、高

崎映画祭、シネマター

クたかさきを運営する

NPO法人たかさきコ

ミュニティシネマの情

熱無しには成し得な

かった。

●電気館を舞台に大騒動

この高崎電気館で、北大路欣也、

泉谷しげる、志賀廣太郎の3人組が

悪を成敗する「三匹のおっさん」の

スベシャルドラマ（2018年正月ドラ

マ・テレビ東京）が撮影された。

「三匹のおっさん」は、これまで3

シリーズ放送され、「東京ドラマア

ワード2014」特別賞を受賞した

人気ドラマ。原作は有川浩。東京の下

町「うぶ阜が丘・みどり商店街」を舞台

に、還暦を迎えたかつての悪ガキ3人

組が、まちを守る痛快コメディだ。

この「三匹のおっさん」正月スペシ

ャルドラマは、商店街に残る古き良

き映画館「ひかり座」を三匹のおっ

さんが地上げ屋から救うストーリー。こ

の「ひかり座」に高崎電気館が使われ

た。ひかり座は、おっさんたちが子

どもの頃に鞍馬天狗やちゃんばら映画を

観た思い出の場所。高崎電気館ロケが

昭和ノスタルジーを際立たせている。

●重厚なフィルム映写機の存在感

ひかり座では、伊東四朗が演じる

館主・善さんが老体を奮わせて映写

機を回しているが、高崎電気館の映写

室が実際に使われている。電気館映写

室のフィルム映写機と一連の映写機器

は現役で稼働しているもので、こ

の物語に本物のリアリティを与えてい

る。使いこまれた機器の摩耗感、年月

によって磨かれた風格が、映像から伝

わってくる。善さんがフィルムを映写

機に通ず作業が細かく描写され、この
ドラマの見どころを作る。

かつて高崎電気館の映写室では2台
のフィルム映写機が使われていた。修
理に手を尽くして1台を復活させ、も
う1台は往時のままに復元し、2階ロ
ビーに展示されている。

●映画を楽しむ笑顔が館内にあふれる

「ひかり座」では赤字が続いてい
る。そこに種れい演じるスター女優・
花沢ゆかりが訪れ、ひかり座で映画ロ
ケをしたいと持ち掛ける。貧しかった
子ども時代に善さんにタダで映画を見
せてもらったことがきっかけで女優を
志したのだ。

商店街での映画ロケは大成功、存続
が決まったひかり座で映画の試写会が
行われる。高崎市民エキストラがひか
り座を満席にした。

ひかり座の前に立った北大路が大声
で言う。「いいなあ、昔のまんまだったの
は」。志賀がつぶやく「世界遺産は無
理でも昭和遺産にはなつてもいいね」。

まちの古い建物を守りたいという話
は全国各地にでもある。しかし実際は
修繕、維持に大きな費用を要したり、
取得する予算がないなど、保存される
のは稀で、多くは解体されてしまっ
た。高崎電気館の復活は奇跡的な出来事
と言える。正月に寅さん映画を上映し
たり、昭和の名作を集めたりするな
ど、粋なフィルムセレクションで、遠
方からもファンが訪れる。

